

「子どもから大人へ 学校から社会へ」

本校では、個別の移行支援計画を中心にして進路指導を進めてきました。個別の移行支援計画は高等部生徒が「子どもから大人へ・学校から社会へ」と移行する際に、生徒自らが主体的に自分の進路を決定するための支援計画のツールです。

この計画は、高等部の生徒の進路指導を進める全体計画として「進路学習」「職場見学」「校内実習」「職場（体験）実習」課題設定・評価」「進路相談・懇談」「進路研修」等の3年間を見通した「進路指導の全体計画」が基本となって「個別の移行支援計画」を作成しています。

4月、各学年では進路懇談会をもち1年生では、3年間を見通した進路の取り組みについて、2年生では、卒業後の進路を見据えた進路の取り組み、3年生では、具体的に進路決定に向けての取り組みについて話をしてきました。また、進路希望調査をもとに個々の話し合いを元に移行支援計画へ反映させ取り組みを進めてきました。

進路研修会や進路懇談会等含め、保護者の皆様にはご協力等賜り本当にありがとうございました。3年生にとっては、まだまだ厳しい現実が控えておりますが今後とも理解を賜りご協力のほどよろしくお願いいたします。

「高等部1年生 3学期の取り組みから」

1月に校内実習を行いました。「かきのからとおし班」「しいたけの菌打ち班」「クッキー作り班」「清掃班」「リサイクル班」の5つの班に分かれ、班ごとに目標を立てて5日間の実習に取り組みました。社会人講師の先生

に仕事を教えていただいたり、職場見学に行ったり、納品や注文・販売をしたり各班でさまざまな取り組みもしながら、自分たちの仕事が社会とどのようにつながり、人に喜ばれたり役に立ったりしているのかということをしっかり学習しました。実習前よりもあいさつや返事がしっかりできるようになったり、時間を意識して行動できるようになったり、日々の学習に対して積極的になったりと実習を通して学んだことを学校生活に生かすことができている様子もみられます。2月末には高3の先輩から話を聞くグループと心身障害者福祉センターの見学体験をするグループに分かれて、卒業後の生活へ向けて自分の目標や取り組みを考えていく学習をします。もうすぐ2年生。この1年間の取り組みを次へつなげていけるよう、3月にはまとめをしていこうと思っています。

「高等部2年生 生徒職場見学を終え・・・

いよいよ高3に向けて」

1月27日（火）に進路学習の一環として「職場見学」を行いました。職場見学は社会生活や働く事への関心を高め、自分の進路について考える機会とすることをねらいとしています。今回の職場見学は卒業後の具体的な進路先候補かそれに近いところの見学ということで、「自分の進路先として適切かどうか」という視点で見学・体験に真剣に取り組む生徒もいました。学校に帰ってから（企業見学の生徒は翌日）の事後学習では、見学したことを振り返り、進路先を見据えて今後の学校生活にどうつなげていくかを主なねらいとして学習を行いました。

3月初旬に行われる「進路学習のまとめ」と「保護者企業見学」で今年度の進路の取り組みが終わります。これまでの取り組みを参考に家庭でしっかり卒業後の進路について話をさせていただき、3月の個別の進路懇談である程度方向性を定めて3年生での取り組みがスムーズに行えるようにしていきたいと思えます。

「高等部3年生 進路の取り組み」

1月21日の参観懇談日には、グルーピングの授業参観の後に学年進路懇談会を実施しました。進路先の決定している生徒、申請をして30日の抽選を控えている生徒、応募して決定通知を待っている生徒、いろいろな取り組み状況の中ではありません。

したが卒業式まで一月半になった今、お知らせする内容は盛りたくさんでした。

まず、3学年全員の進路希望状況を説明しました。この時期になって、決定先ではなく希望先という表現で報告を行わねばならないのは、昨今、利用決定が遅れてきているためですが、卒業後の生活を考えるための時間が短くなるので、ご家族には不安も募ることと推察致します。

そして、本校のアフターケアのシステムについて説明しました。卒業後のケアを行うことは時間的にも人材的にも充分ではありませんが、関係諸機関の協力の下、バックアップしていくことをお知らせしました。

本校同窓会の規約・入会手続きの説明をしました。卒業生にとって情報交換やリフレッシュの場として活動に参加していただきたいという趣旨をご理解頂きました。

3月9日（月）の卒業式に向けて進路にかかわる取り組みもまだまだ山積みです。生徒達は卒業後の生活のために体験や学習を重ねています。保護者の皆様には、進路先との引き継ぎのために、移行支援計画・引き継ぎ書の作成に尽力いただいています。

本校の進路指導計画に基づいて、多くのお願いをしましたが、いつも暖かくご協力くださってありがとうございました。末筆ながら、お礼申し上げます。